

トウモロコシ今後の管理について

JA 山武郡市

5月上旬からハウス作型の出荷が始まっていますが、例年よりもL級の発生がやや多く、トンネル作型でも生育の遅れやばらつきがみられています。今年は天候不順、特に降雨による肥料の流亡や、日照不足による光合成の低下が穂の肥大不足に影響する恐れがあるため、今後の管理を確認し「できる手段」を講じてください。

生育ステージ	管理のポイント	備考
ひざ丈	追肥・中耕の実施 ※中耕は根を切断しない 距離で実施	幼穂形成期を迎えており、穂のサイズが決まる時期です。肥効の確保と、根の張りやすい環境を作りましょう。
雄穂抽出期	追肥	穂に肥料を利かせる最後のタイミングです（重要）
受粉前まで	液肥の散布	樹勢が虚弱な場合は窒素主体の葉面散布を、曇天時は光合成を促進させる「鉄+微量元素」の液肥散布も効果的です。
その他	除けつ、除房はしない	天候不順の時は、主茎へのダメージの方が大きくなるため控えましょう。

※トウモロコシの包皮は葉の一部です。葉が小さいまま穂が肥大すると先端部の露出や傷みにつながります。追肥・葉面散布はできる限り絹糸抽出前までに行いましょう。